

幼児教育リーフレット

援助(支援)編

保育現場における
援助って
なんだろう？

しっかり準備
したはずなのに…



なんだか
うまくいかない…

指導案に
なんて書こう？

「援助」という言葉からどのようなことを思い浮かべますか？



環境構成ももちろんですが、見守ることや子どもどうして意思疎通が難しい時に、言語化を手伝うことも援助です。例を挙げるときりがないぐらいありますね。



このリーフレットにおいて「援助」とは

保育者が子どもに対して行っているすべての「指導」「支援」と定義して、以下、内容を進めていきます。

「しっかり準備したはずなのに、思った反応が返ってこない」そんなときは、日々の援助を支援教育※の観点で見直してみてはいかがでしょうか？

※支援教育とは、子ども本人の将来の自立や社会参加にむけて、本人の主体的な取り組みを支援するという観点に立ったうえで、子ども一人ひとりの教育的ニーズを把握して、適切な指導及び必要な支援を行うもので、すべての子どもに対する教育理念に通ずるものです。

最近、「障がい」ではなく「症状」と捉えることが多いです。この「症状」は周りの理解と支援があることによって、「個性・特性」と捉えられます。周りの理解と支援がなければ、それが周りとの関係の中で「障がい」になってきます。ですから、「障がい」は環境との相互関係で決まっていくということになります。(2025年幼小接続推進フォーラム)

だから、わたしは「支援」という言葉の代わりに
「ナチュラルサポート」を使用しています。



大阪大谷大学
小田 浩伸 教授

※このリーフレットでは、幼児・乳児・園児などのすべてを総称して、「子ども」と表しています。

障がいのある子どもが困っている姿を捉える観点

子どもが感じている困難さを理解し、適切な援助につなげるためには、日々の保育での気付きが重要です。しかし、子どもに現れた一つの姿から何かの障がいに結びつけることには慎重でなければなりません。「落ち着きがない」、「聞こえにくい」といった表層的な困難さではなく、その姿が現れる背景や環境要因を捉えることが、具体的で適切な援助につながります。

考えてみよう!

Q. 子どもに次のような困難さがみられるとき、どのような個性・特性があると思いますか？

- 光をまぶしがる
- 見ようとする物と視線が合わない
- 人と視線が合いにくい
- 注目することが難しい
- 人や物とぶつかる
- 探し物が苦手



視覚障がい
では？

と思った人が多いのではないのでしょうか？

その可能性も考えられますが一方で、自閉スペクトラム症 (ASD) などの場合でも

- * 視線が合わない、合いにくい
- * 注目することが難しい
- * 感覚的な過敏性があり視覚刺激に困難さを感じる

などの困難さがみられる場合があります。
また、「注目することが難しい」ことは、注意の持続に困難さのある注意欠如・多動症 (ADHD) も考えられます。

※それぞれの子どもの状況に応じて適切にアセスメントを行い、その子どもに合った具体的な援助を検討することが大切です。

困っている姿を捉えるときの留意点

- 困っている姿は頻繁にみられるか
- 「個性」「個人差」の範囲内であるか
- 発達途上の姿と捉えられるか
- 生理的、心理的状況と関連しているか
- どのような場面でみられ、どのような場面でみられないか
- どのような関わりによって、困難さが軽減されるか
- どのような環境を構成することで、困難さが軽減されるか



「障害のある幼児と共に育つ
生活の理解と指導」
(令和5年3月文部科学省、厚生労働省、内閣府)

好きを育み、得意を伸ばす援助ができていますか？

こんな事例がありました！

周りの友だちとの距離の取り方が難しい子どもが打ち解けるきっかけとなった援助

(子どもの様子)

- 友だちや保育者など周りの人との関わり方に困難さがみられる
- ムシが好きで、図鑑をよく見ている

援助その1 他の子どもの活動の様子がうかがえる場所に
ムシの飼育コーナーと絵本スペースを配置

援助その2 ダンゴムシの排卵に興味を持ったタイミングで
ダンゴムシスーツの作成を提案

➡ 周りの子どもたちも一連の遊びに
興味を持って、友だちとつながるきっかけに



一人のための援助で、みんなが楽しく快適に…

こんな事例がありました！

物置スペースで落ち着く子どもへの対応からできた「ゆっくりスペース」



➡ 今では、廊下やクラス内に設置され、誰でも利用できるように

コラム～教えて!小田先生～

Q1

制作などの段取りを、どんなに丁寧に伝えてもうまく伝わっていない気がするんです。

⇒ 漢字を覚える時に、筆順で覚えますか？(継次処理)それとも絵のようにパーツで覚えますか？(同時処理)実は、人によって情報を処理する過程が違います。同時処理が得意な子どもにとっては、完成形を示した方が理解しやすいケースがあります。



(継次処理)



(同時処理)

Q2

同じ診断を受けた子どもでも、まったく違うことに困っており、子ども理解が難しいです。

⇒ 診断名が同じであっても、その現れ方はさまざまです。一人ひとりの個性や特性も異なるので、診断名からその子を理解するという事は、無理があると思います。まずは、「自分の事を心配してくれた。」「自分の事を考えて一緒に遊んでくれた。」などのような経験に基づく、一対一の信頼関係の構築を大切にしたいです。

(2025年幼小接続推進フォーラムより)

こんな経験ありませんか？

『片付け名人☆』



～これからもすべての子どもたちの安心を一緒に考えましょう～

資料紹介

幼稚園教育要領



幼保連携型認定こども園教育・保育要領



保育所保育指針



幼稚園教育要領解説



幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説



大阪府幼児教育センター

〒558-0011 大阪市住吉区荻田4丁目13番23号 (大阪府教育センター内)

TEL 06-6692-1882 (代表) URL <https://www.osaka-c.ed.jp/oyk-c/index.html>

令和8年3月発行